

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 8 月 10 日 (2006.8.10)

【公表番号】特表 2002-519856 (P2002-519856A)
 【公表日】平成 14 年 7 月 2 日 (2002.7.2)
 【出願番号】特願 2000-556884 (P2000-556884)
 【国際特許分類】

H 0 1 L 21/304 (2006.01)

B 0 8 B 3/04 (2006.01)

H 0 1 L 21/306 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/304 6 5 1 D

B 0 8 B 3/04 A

H 0 1 L 21/306 J

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 6 月 16 日 (2006.6.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ハウジング (1 2) と、
 ハウジング内に位置するボウル (1 4) と、
 ボウル内に位置し回転することができるロータ (1 8) とを含んでいる遠心処理装置であって、

ロータが、ボウルの第 1 の側により近く、かつ、ボウルの第 1 の側とは反対側のボウルの第 2 の側からより遠いところに位置することを特徴とする遠心処理装置。

【請求項 2】 ロータがボウル中心軸 (5 0) から鉛直方向にオフセットしていることを特徴とする、請求項 1 に記載の遠心処理装置。

【請求項 3】 さらに、ボウルの底部、ロータ回転方向にみてボウルの底部から 4 5 ° 上側の位置、又はこれらの間において、ボウル内に一群の排液開口部が配置されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の遠心処理装置。

【請求項 4】 ボウルは円筒形であってハウジング内の所定の位置に固定され、排液開口部とロータ軸とがボウル中心軸 (5 0) に関して互いに反対側に位置することを特徴とする、請求項 3 に記載の遠心処理装置。

【請求項 5】 ロータ軸 (5 2) がボウル中心軸 (5 0) の上方に位置していることを特徴とする、請求項 1 に記載の遠心処理装置。

【請求項 6】 ロータ軸 (5 2) がボウル中心軸 (5 0) の一方の側で水平方向に向いて配置されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の遠心処理装置。

【請求項 7】 排液開口部が長円形であり、実質的に各排液開口部の主軸が、隣り合う各排液開口部の主軸に対してある角度の方向を向いていることを特徴とする、請求項 3 に記載の遠心処理装置。

【請求項 8】 さらに、ロータ内に位置する平板状媒体ホルダ (2 4) を含んでいることを特徴とする、請求項 1 に記載の遠心処理装置。

【請求項 9】 平板状媒体ホルダが、ロータ内に位置するカセット (2 4) を含んでいることを特徴とする、請求項 8 に記載の遠心処理装置。

【請求項 10】 排液開口部が主軸及び副軸を有する長円形のものであり、さらに第

1 の方向にロータを回転させるためのモータを含み、長円形の各排液開口部の主軸が、上記第 1 の方向と平行でなくかつ垂直でないように配置されていることを特徴とする、請求項 3 に記載の遠心処理装置。

【請求項 1 1】 ボウルが円筒形であり、ロータ軸（ 5 2 ）がボウル中心軸（ 5 0 ）と平行であることを特徴とする、請求項 1 に記載の遠心処理装置。